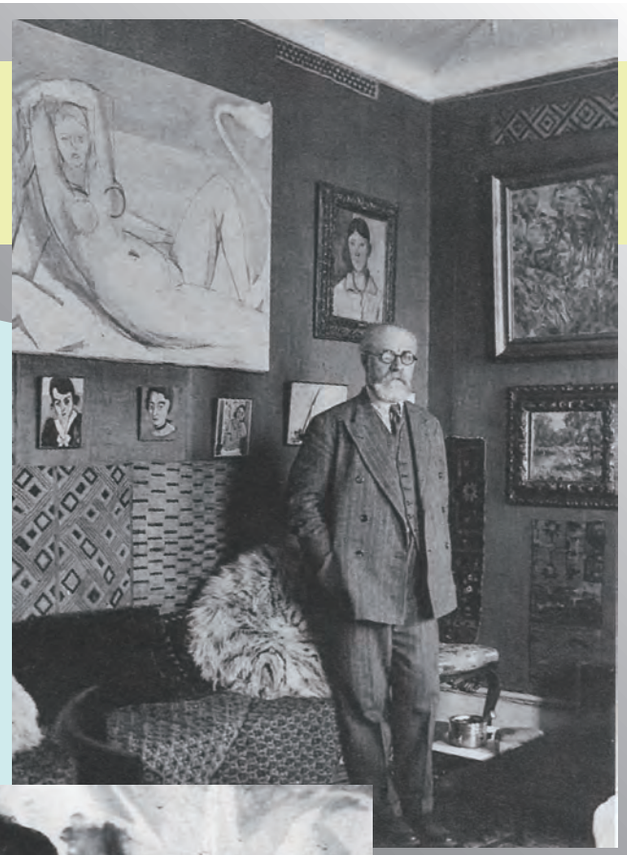
日仏美術学会　シンポジウム

21 世紀にマティスを再考する：ポリフォニックな視点から



2023 年 9 月 23 日（土）13:30-18:00

於　京都工芸繊維大学　松ヶ崎キャンパス　東 3 号館 1 階 K101 教室

Zoom によるオンライン配信あり　要参加申し込み －9 月 19 日（火）20 時迄－

ープログラムー

13:30　開会挨拶　永井隆則（京都市立芸術大学）

　　趣旨説明　全体司会　吉田朋子（京都ノートルダム女子大学）

＜発表 1 ＞

13:35　大久保恭子（京都橘大学）「パリのマティスとニューヨークのマティス」

14:05　中西麻依（東京大学大学院）「マティスがみた巨匠と画家たち――ルーヴルからサロン・ドートンヌへ」

14:35　渡辺亜由美（京都国立近代美術館）「マティスと現代美術家たち　ー《ブルー・ヌード》を中心にー」

15:05-15:20　休憩

＜発表 2 ＞

15:20　永井隆則（京都市立芸術大学）「マティスとデザイン」

15:50　関直子（早稲田大学）「マティスの礼拝堂と 1951 年の個展」

16:20　天野知香（お茶の水女子大学）「1930 年代以降のマティスの展開」

16:50-17:05　休憩

＜討議＞

17:05　コメント・全体討議　司会　河本真理（日本女子大学）

17:55　閉会挨拶　礒谷有亮（神戸大学）

閉会後、会場で自由な意見交換の場を設けます。ぜひご参加ください。

＊発表題目等は変更することがあります。

参加申し込み QR コード

主催：日仏美術学会

後援：美術史学会・美学会

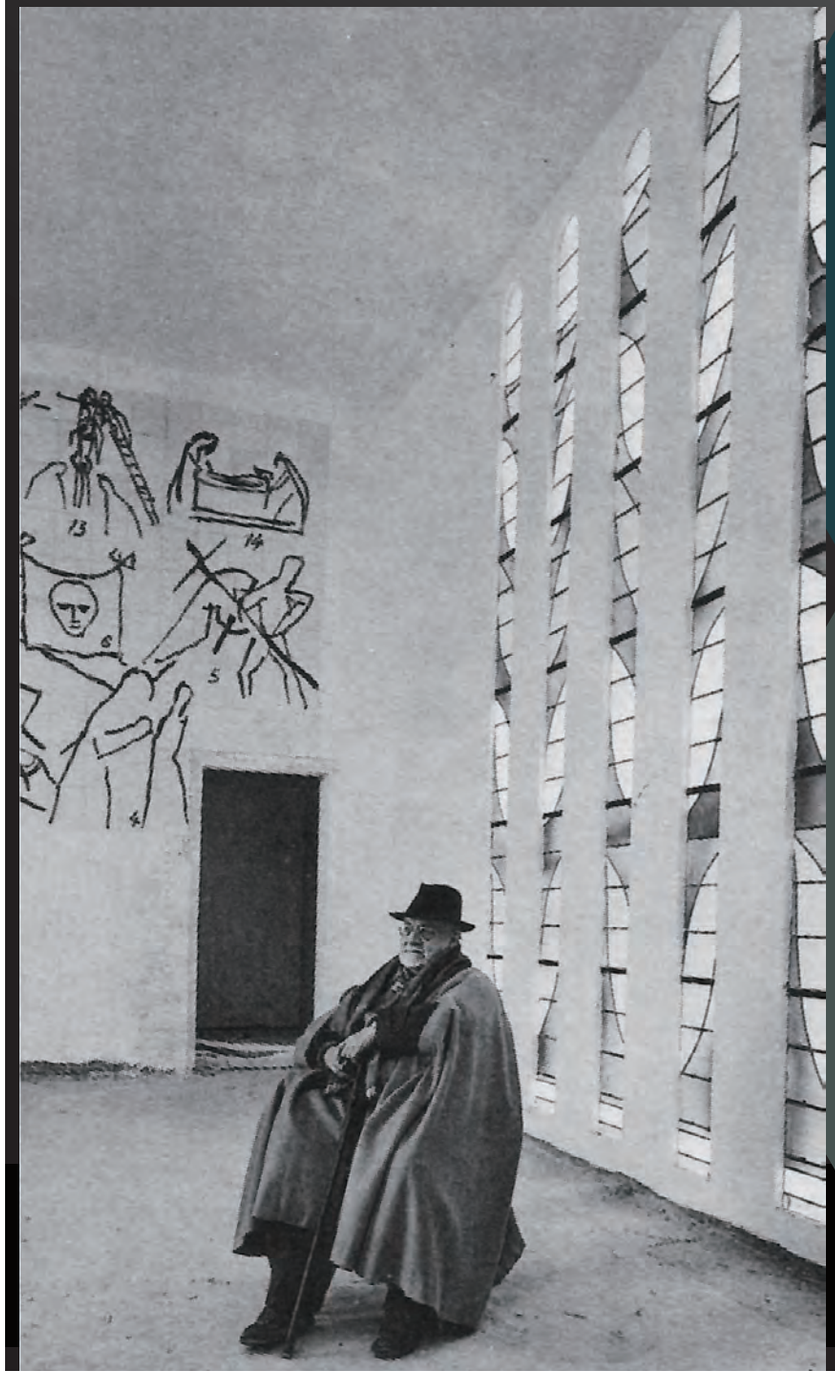
学会事務局
〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿 3-9-25　日仏会館内
TEL/FAX：03-3440-1686
E-MAIL：info@sfj-art.org

問い合わせ先
吉田朋子（tmkysd@notredame.ac.jp）

画像出典　John Elderfield(dir), *Henri Matisse: A Retrospective* ,Exh.Cat., The Museum of Modern Art, New York, 1992.

日仏美術学会　シンポジウム

21 世紀にマティスを再考する：ポリフォニックな視点から



2019 年はマティス生誕 150 周年であり、展覧会企画が世界規模で準備されました。翌年世界を覆ったコロナによってその多くが延期あるいは規模を縮小される憂き目にあったものの、各企画ではその時点でのトピックのおおよそが取り上げられ、2021 年には『ユリイカ』5 月号でマティス特集号が組まれ、あらかたのテーマを網羅しました。
2023 年、様々な困難を乗り越えて、東京都美術館「マティス展」が開催されています。
来年には国立新美術館「マティス　自由なフォルム」展が実現することが発表されています。
研究成果と作品の両面からマティスに向き合うことのできる稀有な時を迎えた今、日本を代表するマティス研究者の方々・新進気鋭の研究者の方々をお迎えして、汲めども尽きぬ画家マティスにささげるシンポジウムを開催し、これからも続くマティス研究への道標としたいと存じます。

登壇者紹介（プログラム順）

大久保恭子（おおくぼ・きょうこ）
京都橘大学教授。専門は 20 世紀フランス美術。大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士課程（後期）単位取得退学。博士（文学）。単著に『〈プリミティヴィスム〉と〈プリミティヴィズム〉』（三元社、2009 年）、『アンリ・マティス『ジャズ』再考』（三元社、2016 年）など。共著に『西洋近代の都市と芸術８　ロンドン』(竹林舎、2014 年)、『ピカソと人類の美術』（三元社、2020 年）、『戦争と文化』（三元社、2022 年）ほか。

中西麻依（なかにし・まい）
東京大学総合文化研究科、パリ・ナンテール大学 HAR 博士課程在籍。20 世紀初頭の絵画と展覧会組織についての博士論文を執筆中。
東京大学総合文化研究科超域文化科学専攻、比較文学比較文化コース修了。研究成果として「マティスになるために―アンリ・マティスと巨匠」（『ユリイカ 2021 年 5 月号特集=アンリ・マティス』青土社、311-318 頁）など。

渡辺亜由美（わたなべ・あゆみ）
京都国立近代美術館特定研究員。東北大学文学部美学・西洋美術史研究室卒業、大阪大学大学院文学研究科西洋美術史研究室修了。2014 年より滋賀県立美術館学芸員として勤務、2023 年 7月より現職。担当した主な展覧会は「ボイスオーバー　回って遊ぶ声」（2021）、「生命の徴―滋賀と「アール・ブリュット」」（2015）など。主な論文に「ニューヨーク・アートシーンとふたつの「マティス」」（2019）。専門は現代美術。

永井隆則（ながい・たかのり）
京都市立芸術大学非常勤講師。専門はフランス近代美術史。修士（京都大学大学院）、D.E.A.(プロヴァンス大学大学院)、博士（文学）(京都大学)、2022 年 3 月京都工芸繊維大学を定年退職。著書に『モダン・アート論再考 - 制作の論理から』（思文閣出版、2004 年）、『セザンヌ受容の研究』（中央公論美術出版、2007 年）、『絵画における真実 - 近代化社会に対するセザンヌの実践の意味』（三元社、2022 年）など。

関　直子（せき・なおこ）
早稲田大学文学学術院教授。東京都美術館、東京都現代美術館開設準備室を経て、2020 年まで同館学芸員として日仏の近現代美術の展覧会を担当。マティスに関する著作に「美術館からの距離―マティスのヴァンスでの試み」『西洋美術研究』No.15（2009 年）、『マティスのロザリオ礼拝堂』（共編・共著、光琳社、1996 年）、共訳書にイヴ=アラン・ボア『マチスとピカソ』（日本経済新聞社、2000 年）など。

天野知香（あまの・ちか）
お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系教授。専門はフランス近代美術史。東京大学大学院博士課程修了。パリ第一大学芸術考古学研究所博士課程留学。博士（文学）。主要著書・編著に『装飾 / 芸術−19-20 世紀フランスにおける「芸術」の位相』（ブリュッケ、2001 年）、『西洋近代の都市と芸術３パリ II』（竹林舎、2015 年）他。展覧会企画として『マティス　プロセス／ヴァリエーション』（国立西洋美術館、2004 年）。

河本真理（こうもと・まり）
日本女子大学国際文化学部教授。専門は西洋近現代美術史。パリ第一大学芸術考古学研究所博士課程修了。博士（美術史）。主な著書に『切断の時代　20 世紀におけるコラージュの美学と歴史』（ブリュッケ、2007 年、サントリー学芸賞、渋沢・クローデル賞特別賞）、『葛藤する形態　第一次世界大戦と美術』（人文書院、2011 年）、『ピカソのセラミック　モダンに触れる Picasso Ceramics: The Modern Touch』（編著、ヨックモックミュージアム、2022 年）など多数。

画像出典　John Elderfield(dir), *Henri Matisse: A Retrospective* ,Exh.Cat., The Museum of Modern Art, New York, 1992.